

2022年9月26日

文責 (一社) 多文化共生コスモ越谷 奥村裕子

多文化進学ガイダンス 2022 結果報告

開催日時：2022年9月18日(日) 午後1時より午後4時

開催場所：越谷市市民活動支援センター会議室A

共催：多文化こども学習塾 越谷市国際交流協会

協力：(一社) 多文化共生コスモ越谷

後援：越谷市 越谷市教育委員会

昨年同様、新型コロナ対策をとり、完全予約制で実施した。当日は台風が関東地方に接近し悪天候ではあったが8組が参加した。(申込者9組のうち1組がキャンセル)

個別相談の前に、質問事項や、問題点などを主催者側でチェックし、その情報を高校教員に渡してからの面談となった。通訳は、多文化こども学習塾の卒業生に依頼し、若者が参加者に実体験を伝えながら通訳を行うとなった。また、行政書士も参加し外国籍の子どもたちの在留資格に関する説明を、主に高校教員に向けて行った。

完全個別相談は、昨年同様、参加者がしっかりと話を聞くことができ、今年も好評であった。また、通訳は通訳だけではなく実体験を伝えることで、参加者と一体となった場が提供でき、参加者への大きな励みになったと考える。子どもの在留資格については高校教員から在籍校の生徒についての質問もあり、行政書士から話が直接聞ける貴重な時間であった。

※新型コロナ感染予防策

- ◇ 完全予約制での実施
- ◇ 個別相談のみの実施
- ◇ 会場に入る人数の制限
- ◇ 会場に入る前に、検温、マスク(不織布のみ)、文具の消毒徹底
- ◇ スタッフの人数制限

(1) 完全予約制の時間割(各3組ずつ)

- ①13時20分(受付) 13時30分~14時10分
- ②14時10分(受付) 14時20分~15時
- ③15時(受付) 15時10分~15時50分

(2) 参加人数

	こども	保護者 など	高校 教員	通訳	体験者 大学生な ど	スタッフ	合計	
2022	7名	11名	5名	4名	0	9名	36名	コロナ対応
2021	9名	11名	5名	4名	0	8名	37名	コロナ対応
2018	9名	11名	5名	10名	4名	21名	60名	
2017	18名	27名	5名	8名	3名	17名	78名	

参加者の出身国（両親の出身国）

中国 3名
フィリピン 2名
パキスタン 1名
ガーナ 2名

中学3年	7名
既卒	1名

アンケート

【来日年月日】

2019年	2020年	2022年	小学2年	日本生まれ
1	1	2	1	3

【両親の出身国】

	外国	日本
父	4	4
母	8	

【日本語が話せますか】

	1. 上手く話せる	2. 話せる	3. 少し話せる	4. 話せない
こども	4		4	
父	5	1		1
母	3	1	2	2

【日本語が読めますか】

	1. 漢字があっても読める	2. 漢字があっても半分くらい読める	3. 平仮名は読める	4. 読めない
こども	2	6		
父	2	1	2	2
母	1	2	1	4

【学校の授業がわかりますか】

	1. よくわかる	2. 半分くらいわかる	3. わからない
	2	5	1

今回の参加者の母親は全員外国人であった。母親の会話力は「少し話せる」「話せない」

を合わせて4名だった。日本語を読むことについては、「漢字があっても読める」と回答した母親は1名のみで、他の7名の読む力は非常に弱い。このような状態では家庭内の主な言語は母親の母語であろう。そして、小学校、中学校の勉強を家庭でカバーすることはできないだろう。「学校の授業が分かるかどうか」の質問に、よくわかる、と答えた参加者は2名のみで、6名は授業をほとんど理解していなかった。なかでも、両親ともに「話せない」「読めない」を選択した参加者は不登校にもなり「授業がほとんどわからない」を選択していた。

また、「日本生まれ」「小学校2年」で来日の参加者が4名いた。長期に日本に居るにもかかわらず、日本語力は授業に追いついていない。「漢字があっても半分くらいは読める」が6名いた。この中には、長期滞在者2名が含まれる。また、「授業が分かるかどうか」の質問に、「半分くらいはわかる」が5名で、ここにも長期滞在者2名が含まれる。上述したように母親の日本語力は低い。こどもを支える環境がなければ、こども自らの力で授業についていくのは厳しい。

以下はスタッフの振り返りでの意見である（含む状況報告）

- ◆ 外国人枠で受験希望。三郷の日本語教室は子供が満杯。だが、受け入れる。三郷北は進級が大変。日本人と同じ。今後は変わるかも。三郷北は、特別枠になって、その対応を模索しているようだ。
- ◆ 参加者は外国人特別選抜の話始めて知った。（栗橋北彩高校）
- ◆ 担任のフォローが手厚かった。教員二人が参加。ガイダンスの申し込みも担任からだった。
- ◆ 高校のレベルが本人と合わない。本人はガッカリした。
- ◆ フリースクールに通っていた。不登校。日本には通える学校がある。日本の高校を先生方に勧められた。母子家庭、元気になったようだ。
- ◆ 高校のイメージが掴めない。なりたいのはゲームのプログラミング。
- ◆ 初めての通訳だったが、なんとかできた
- ◆ 日本に来たとき、みんなの助けで助かった。支援する側になったことに感激している。自分も支援に力を入れたい
- ◆ 若い通訳と話して、改めて、活動の継続の必要性を感じた
- ◆ 通訳のおかげで参加者との交流が取れてよかった。
- ◆ 通訳を通して、自分たちの将来像が見えたようだ。自分たちの範囲で、進学すればなんとかなる気がした。
- ◆ 通訳のおかげで、相談終了後は、明るい笑顔になっていた。
- ◆ 子供の在留資格について知らない先生が多い

以上

